

## ◇編集後記◇

早いもので本誌も今年の最終号を迎えました。私が副編集長をお引き受けしてから3年近くが過ぎましたが、その間にあった産業衛生に関連する出来事を振り返ってみたいと思います。私が副編集長に就任する直前(2011年)には、東日本大震災と福島第一原発の事故が起こり、被災地での復興作業などにおける産業衛生という新たな問題が提起されました。本誌でも特集が生まれ、英文誌 *J. Occup. Health* (JOH) にも関連する論文がいくつか掲載されています。

昨年(2012年)は日本産業衛生学会での発表をきっかけとして、大阪の印刷会社における胆管癌患者の多発が大きな社会問題となりました。この問題に関連して、今月発行される JOH (第55巻第6号)では、大規模データベースを用いて印刷業の胆管癌発症リスクを算出した論文が掲載されています。印刷業における胆管癌の罹患率は他業種に比して高い傾向はあるが統計学的に有意ではなく、大阪のケースと同等に論じることができないが、今後のさらなる研究が必要であろうという内容です。

今年(2013年)は、インジウム化合物などが特定化

学物質障害予防規則(特化則)の第2類物質に指定されたことに伴う改正政省令が施行されました。インジウム化合物による健康影響については、間質性肺炎の最初の症例(2003年)、労働者の肺への影響(2009年)、動物実験による発がん性(2011年)などに関する報告が JOH に掲載されています。これらの論文は、今回の規制の鍵となる重要な科学的根拠を提供しています。本学会のジャーナルは、新たな産業衛生学的問題を提起し、それらを解決する道筋を作るといった社会的役割を担っていることを改めて認識するとともに、このような問題をいかに未然に防ぐかを考える契機にすることが必要と感じます。

今年は、10月前半までは日本各地で真夏日になるような暑い日が続きましたが、後半からは急に気温が低下して秋らしい気候となりました。そのため、体調を崩された方も多いのではないのでしょうか。来年も学会員の皆様の健康と研究・実践活動の発展を祈念しつつ、優れた論文の投稿を期待しております。

(平工雄介)

## 「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：笠島 茂(三重大)

副委員長：樺田尚樹(国立保健医療科学院)、杉森裕樹(大東文化大)、高尾総司(岡山大)、  
武林 亨(慶應大)、玉腰暁子(北海道大)、那須民江(中部大)、西田和子(久留米大)、  
平工雄介(三重大)、藤野善久(産業医大)、八谷 寛(藤田保健衛生大)

編集委員：石竹達也(久留米大)、井上和男(帝京大)、植嶋一宗(津保健福祉事務所)、  
小笹晃太郎(放射線影響研)、萱場一則(埼玉県立大)、川口陽子(東京医歯大)、熊谷信二(産業医大)、  
黒沢洋一(鳥取大)、近藤尚己(東京大)、酒井一博(労働科学研)、佐々木美奈子(東京医療保健大)、  
菅沼成文(高知大)、田中昭代(九州大)、土井由利子(国立保健医療科学院)、中尾睦宏(帝京大)、  
中村裕之(金沢大)、馬場園明(九州大)、原田浩二(京都大)、福島哲仁(福島県立医大)、  
堀口兵剛(秋田大)、丸山総一郎(神戸親和女子大)、三木明子(筑波大)、三宅達郎(大阪歯大)、  
村田勝敬(秋田大)、毛利一平(三重大)、大和 浩(産業医大)、吉田貴彦(旭川医大)、  
渡邊博且(産業医大)

客員編集委員：梅津美香(岐阜県立看護大)、田中紀子(国立国際医療研究センター)、中田光紀(産業医大)、  
東 尚弘(東京大)、八幡勝也(産業医大)